誌上行学講習会

高佐日煌上人

それからおろかなる心（畜生心）、みんな普段はすました顔をしていますから愚かな心はないようですが、女房に内緒でつまみ食いしたという経験のない人は少ない。プラトニックラブなんてことを言いながら皆やってる。誰でもそういう心は持ち合はせているのであります。それからたかぶった心（慢心＝きょうまん＝修羅心）これは自分はえらいんだ、強いんだというたかぶった気持のことで、よほど段違いだと思わなければたいがいは自分の方がえらいと思いつづけています。人と人とが要談している。その中に雑談に入ってよもやま話しに花を咲かせますが、それをそばでじっと聞いていてごらんなさい。必ず自慢話しをしたりしている。とにかく自分は幸福だということを人に聞かせたい。これなども自慢の部類であります。又中には「卑下まん」といって妙に遠慮する人もあります。これ等はやはり慢心の一種に入ります。町会の役員を依頼しようとやって来て「何とか一つ評議員に成っていただきたいのですが」と依頼される。受ける方は「待ってました」という気持で一っぱいなのですが、その卑下まんは「いいえどういたしまして、私のようなものはとてもそんなお役目を引き受ける資格はありません。どうか他の良い人におねがい致します」「さようでございます」なんて辞退する。これを正直に受け取って「これを正直に受け取って」と帰ろうものならそれでは又皆と相談致しまして」と帰ろうものなら大変御気嫌を悪くする。口では卑下しながら腹の中では慢心している人があります。皆さんもおもいあたるふしがあると思います。

次いでは淡々としてみだらな欲を起さない（人間心）で人生に処す人の心。これはごく平静無事であります。生きることの生活に楽しみをいだく心と言えましょう。

それからこの喜びを感謝しようという心（天上心）。心がこの天上界にあれば何事も嬉しく有難くなるのであります。美人を見る。きれいな衣服を着ている人を見る。それを見てうらやましく思うのでなくてああすばらしいなあ、ありがたいことだなあと感ずる心。正しい意味での快楽を知る心であります。

それから向上心、いつもじっとしてはいられない。もっともっとみがきをかけたいという心（即ち声聞＝学問的に知ろうとする心）縁覚（体験的に知ろうとする心）。これは立派な心で、楽しかったこと悲しかったこと、苦しかったことつらかったことを一切反省の材料として悟りへの足場にする、けなげな心であります。

それから愛情心（菩薩心）。人に対する愛が大きく現れる。眼の前で困っている人を見ると「助けてやりたいなあ」という気持が起る。中にはこれに反発をする人もあります。例えば席をゆずられても「おれはそんなに年よりではない」といっていない人反発する人。これ等はまだまだ成長していない人間と言って良いでありましょう。とにかく人へのお世話、愛情が国家社会、人類全体に向けられる程、世の為人の為に遂にはしまう程、世の為人の為に幸福を自分を犠牲にしてまで人の幸福を願う心、これを大菩薩心というのであります。

その心のより完成した慈愛と救済の心（仏陀心）にもなれる筈であります。

これらの心がすべて人間に備わっているのだという根拠に立ちまして、これを更に細かく見て行くのであります。

以下次号